

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりが、よりよい「成長」を遂げている学校。
1. 授業や特別活動を通じて、他者とともに自己伸長がはかられている。
 2. 規律を遵守し、規範意識を持ち、正しさを一貫して追及している。
 3. 生徒の多様な進路を保障しつつ、社会に有為な技術者を送り出している。
 4. 地域に貢献し、地域に開かれている。

2 中期的目標

1 確かな学力への取組み

- (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業を展開するとともに、生徒との信頼関係をベースにした授業改善に取り組む
 - ア 生徒の実態を把握し、実態を踏まえた授業を展開する。さらに、少人数授業、選択科目の充実を行い「わかる授業」を実践する。
 - イ 生徒による授業評価を有効に活用し、授業改善に資する。
 - ウ 学校での読書活動を一層推進するとともに、授業等における図書館機能の活用を図る。
※生徒による授業評価における授業満足度(平成 25 年度 77%)を毎年 5%引き上げ、平成 26 年度には個々の教員が 82%となるように努める。
- (2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
 - ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身につけるため企業や大学等と連携し、職業教育の充実を図る。さらに、英語によるコミュニケーション能力を育成するなど、国際社会に通用する技術者を育成する。
※生徒向け学校教育自己診断結果における実習授業における満足度 80%をめざす (H25 年度 73%)

2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ

- (1) 人権教育に立脚した他者と連携する力の育成に努めるとともに、生徒との信頼関係をベースにした毅然とした生徒指導を行う。
 - ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
 - イ 問題行動の防止や再履修生および退学者の減少に努める。
- (2) 分掌・学年等の取組の中で、生徒の自己実現への支援に努める。
 - ア 教育相談体制の機動性を高め、日々の生徒支援に即応できるようにする。
 - イ 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、教育委員会等の事業を活用しながら、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - ウ 中途退学率の減少 (H25 年度 0.6% 3 月 5 日現在)・就職・進学とも全員内定を各年度の目標とする。・卒業後の追跡調査の精査をはかる。

3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立

- (1) 生徒が生き生きと学校生活を送り、また未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。
 - ア 入学後、理論的に専門教育を学ぶことを志向する生徒のニーズに対応できるよう「接続」(進学)に関する教育のあり方を整備する。
 - イ 部活動の振興を図るとともに、資格取得に向けた組織的な取組を活発におこなう。
 - ウ 職員の一人ひとりが学校経営に参画し、経営的視点を持つことのできる組織づくりを進めるとともに、教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務の ICT 化を進める。
- (2) 工学系大学進学専科の指導充実を図り、公立大学への進学を含め生徒の多様な進路に対応する学校づくりを行う。
- (3) 入学後のミスマッチを防ぐために、広報活動をより一層積極的に行う。
※入学者選抜に係る希望調査時倍率および志願者倍率の向上 (平成 26 年度入学生選抜 希望倍率 1.4 倍 志願者倍率 1.3 倍)
- (4) 教員の授業力向上のため、教員相互の研究授業の活性化や外部との連携による研修の充実を図る。
- (5) 退職教員が増える中で、中堅や若手が「ものづくり」の技術を継承する。

4 地域貢献し、地域に愛される学校づくり

- (1) 特別活動(行事、生徒会、部活動)を中心とした、地域への貢献を進める。
- (2) 企業や地域との連携を深め、学校の活性化を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
1 生徒の結果 ① 10 ポイント以上改善した項目 ・授業中は静かにしている。(30→60) ・自分の考えをまとめたり発表する授業が多い。(24→27) ・図書館は利用しやすい。(38→59) ・家庭での勉強は毎日一定時間行っている。(14→26) ② 10 ポイント以上悪化した項目 ・命の大切さについて学ぶ機会が多い。(64→54) ・社会のルールについて学ぶ機会が多い。(41→30) 2 保護者アンケート ① 10 ポイント以上改善した項目 ・テストの点だけでなく、多面的学習評価を行っている。(57→68) ・PTA 活動が盛んである。(47→57) ② 10 ポイント以上悪化した項目 ・保護者懇談会の内容は充実している。(20→10) 3 その他 ・トイレの整備をして欲しい。(多数)	第 1 回 (7/18) ○平成 26 年度学校経営計画及び学校評価について ・「めざす学校像」が「一人ひとりがより良い・・・」となっており、抽象的な表現よりも「ものづくり人材・・・」の様に具体的な内容の方が良いのではないかと？ ・工学系の進学先について、公立大学等への数値的目標を記載しているが、数値のみが一人歩きをする。数値を記載しなくても良いのではないかと。 ・今後英語教育は必要であり、今後英語教育の充実を進める必要がある。 第 2 回 (1/9) ○支援教育の在り方について ・障がいがある生徒の指導は今後積極的に進めて欲しい。 ・学習障がいがある生徒の指導のあり方については、工業の場合は安全性を確保しながら指導していく必要があるが、課題を工夫する等積極的に進めてほしい。 第 3 回 (3/10) ○平成 26 年度学校教育自己診断結果について ・トイレ等の施設設備の改修を可能な限り行い、学習環境の整備を図る。 ○平成 26 年度学校評価・平成 27 年度学校経営計画について ・評価が厳しいので、一部評価を見直した。・生徒を活用する等広報の方法の改善を。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>(1) 学力の定着 ア 生徒の実態を把握し、実態を踏まえた授業を展開する。 イ 授業評価を有効に活用し、授業力改善に資する。</p> <p>(2) ものづくり教育 ア 企業や大学等と連携 英語によるコミュニケーション能力の育成</p>	<p>(1) ア 1年生に朝学と外部模試の導入を図ることで生徒の学力の実態を把握、その実態を踏まえた教育を行う。 共通教科及び系で教育内容の精査を行い学力について検討する。 イ 授業力の向上を図るため、研究授業や外部との連携による研修を実施する。</p> <p>(2) ア 工学系大学進学専科において、大学見学、体験授業等の高大連携に関する内容を充実する。(動機づけ) 高専等とも連携を模索し、実習等の授業に直結できるシステムを構想する。(教員研修を含む) イ 英語教育で実績のある大学との高大連携を強化し、英語教育の充実を図る。(英語によるコミュニケーション能力の向上) ウ 近隣企業との連携を深める。</p>	<p>(1) ア・生徒による授業アンケートにおける授業満足度(平成25年度77%)を毎年5%引き上げ、平成27年度には80%となるように努める。 ・各系・科でシラバスの作成を行う。 イ・各科で研究授業を2回程度実施する。</p> <p>(2) ア・企業や大学との連携を深めることで、生徒向け学校教育自己診断結果における実習授業の満足度80%をめざす。(H25年度73%) イ・英語における高大連携(1大学との)を行う。 ウ・新たに5社以上の企業との連携を図る。</p>	<p>(1) ア・現在の2年生から学年団として始めた朝学を、1年生も導入した。また、1学年については、ベネッセの学力診断テストの導入を行った(年1回及び年2回の実施)。(◎) ・生徒による授業アンケートにおける授業満足度は79.25%であった。(○) イ・各教科での研究授業については若手教員を中心に進んでいるが、定期的なものとはならなかった。(○)</p> <p>(2) ア・企業等との連携は、人材育成事業を通して増やすことができた。また、工学系大学進学専科では、大学見学やオープンキャンパスへ参加した。高専との連携も進めた。(○) ただ、学校教育自己診断の結果からは、実習満足度は78.5%であり、発表の機会を増やす等実習内容の充実をめざす。(○) イ・英語教育に関しての高大連携を実施するには至っていないが、課題研究で英語を使った発表をする等意識向上は図れた。(○) ウ・地元企業の見学や連携事業では、新たに3社と実施できた。(○)</p>
2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ	<p>(1) 人権教育と生徒指導 ア 問題行動の防止や再履修生および退学者の減少に努める。</p> <p>(2) 生徒の自己実現への支援 ア 教育相談体制の充実 イ 進路実現</p>	<p>(1) ア・学習環境の改善を図るため、全教員による学校巡回を定期的に行う。 また、ガイダンス機能の充実を図るため、チューター制度の導入を図る。</p> <p>(2) ア・支援コーディネーターを中心として、支援教育の充実に向けた取組、及び進路指導への取組を活性化させる。 支援を要する生徒の進路実現のため、支援学校との連携を強化する。 イ 就職率100%をめざし、かつ入社後のミスマッチを防止するため、離職率の調査に着手する。</p>	<p>(1) ア・中途退学率の減少につとめる(H25年度1.1%)年度末進級率・卒業率を向上</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率40%以上(平成25年度32%) イ・就職率(学校斡旋による)100%をめざす。 ・卒業後3年の卒業生の離職率調査(状況把握率80%)</p>	<p>(1) ア・生徒の学ぶ意識の改善について、中途退学率は2.5%であり数字的には改善が見られなかった。(△)</p> <p>(2) ア・支援会議を適宜実施し支援学校との連携も行った。その結果、学校教育自己診断の結果教育相談への肯定率は38%となった。(◎) イ・就職希望者の就職率は97.4%で100%に到達することは出来なかった。(○)求人企業数等は昨年の1.22倍に増加しており、第1次の就職試験合格率が約80%に改善されており、学校全体の進路状況の改善はあった。(○)卒業して3年後の離職率調査を行い、その結果18%の離職率であったが、これは、工業系高校の全国平均の22%より良い。(◎)</p>
3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立	<p>(1) 生き生きとした学校生活 学校組織の改善 ア「接続」(進学)に関するシステムを整備する。 イ 部活動の振興を図る。 ウ 学校組織の活性化を進める。</p> <p>(2) 入学後のミスマッチを防ぐために、広報活動をより一層積極的にを行う。 ア 中学校訪問および体験授業 イ 中学生への技術教育の啓発活動を充実する。</p>	<p>(1) ア 工学系大学進学専科の充実に向けて、教育内容の検討を継続する。 高大連携の充実を進める。 公立大学への進路開拓を行う。 イ 部活動をはじめとした特別活動が活発に展開できる体制を構築する。また、クラブへの入部率向上を図る。さらに主な資格取得率の向上を図る。 ウ 学科改編に併せて、学内組織の再構築を行う。 エ 安全で安心な学校づくりのため、危機管理マニュアルの再検討を行う。</p> <p>(2) ア・年間2回の教員による中学校訪問を実施する。また、8月に2日にわたって実習を中心とした工業の体験授業を実施する。また、学校見学会の充実を図る。 ・中学校教員のための「ものづくり講座」を開催する。 イ 中学生への体験入学や資格講習会を通じて、「ものづくり」の楽しさを体感してもらおう。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における行事への満足度5%向上(平成25年度73%) 公立大学等への進学5名をめざす。 イ・部活動加入率前年度比3%増加(平成25年度71%) ・主な資格取得率前年度比5%増加(平成25年度60%) ウ・検討委員会を設置し、検討を重ねる。 エ・新たな危機管理マニュアルの作成</p> <p>(2) ア・入学者選抜に係る希望調査時倍率および志願者倍率の向上 平成26年度入学生選抜希望者倍率 1.4 志願者倍率 1.3 イ・中学校訪問(のべ200校)や体験入学、出前授業(6校)を実施する。</p>	<p>(1) ア・昨年度に引き続きPT会議を毎週開催し、自由選択科目の設定や評価の在り方について検討を進めた。(◎) 公立大学への進学は0名(△) イ・工学系の設置により入部率の減少も懸念されたが、部活動への入部率は73%であり、昨年よりも改善された。(○) 資格取得については、全工協実施のジュニアマイスターのゴールド1名シルバー8名であった。資格取得者総数には大きな差はないが機械検査や第1種電気工事士等への挑戦者数が増加し、技能水準の高い資格への挑戦が増加。(○) ウ・学内組織の改編については一部実施したが全体の再編までには至っていない。(○) エ・危機管理マニュアルの改訂は行ったが、次年度以降もより現実に則した想定に対するマニュアル改定が必要である。(○)</p> <p>(2) ア・中学校訪問は改革時期であった昨年度と同程度の訪問数を行った。体験入学や学校見学会の実施においてもやや参加者の増減はあったものの予定どおり実施できた。(○) イ・出前授業(6回)や中学生ものづくり体験等も実施した。また、中学校の技術家庭科教員の研修を本校で行うなど中学校との連携を深めることができた。(◎)</p>